

消防・救助技術の高度化等検討会（第1回）議事概要

1. 検討会の概要

- (1) 日 時 : 平成25年6月25日（火） 14:00～16:00
- (2) 場 所 : 三番町共用会議所 第3会議室
- (3) 出席者（50音順、敬称略）
 - 委 員 : 飯田 薫、遠藤 高幸、片桐 孝司、黒岩 勝（代）、小林 恭一（座長）
瀬戸 康雄、竹泉 聡、鶴田 俊、富永 隆子、平澤 崇憲、松井 和幸
松澤 孝行、武藤 重男、山口 芳裕、渡邊 敏行
 - オブザーバー : 岡本 健吾（代）、齋藤 健一、坂本 昌也、定岡 由典、鈴木 健
塚目 孝裕、中村 勝美、日高 隆治、松田 満

2. 概要

冒頭、事務局より、検討会の開催趣旨、進め方及びスケジュール等の説明を行った。

【各委員の主な意見】

- マニュアルの見直しにあたっては、フェーズごとの対応の変化や空間的スケールを落とし込めるようなシナリオの想定が重要。
- 特殊災害への対応において特殊資機材は必須であり、マニュアルは特殊資機材がある状態を前提として作るべき。また、特殊資機材を持っていない消防本部に対してどのようなアドバイスを与えるのか明確にすべき。
- NBC災害において、個人防護装備があればかなりの活動が可能であるため、各消防本部の個人防護装備の能力やスペックを踏まえるべき。また、不測事態への対応の観点が重要。
- IAEAの基準等の数値だけを参考に示すのではなく、その基準を用いて運用すれば、現場の職責を全うできるというようなものになれば意義深い。
- NBC災害のような特殊災害においては、消防機関だけで基準を作って運用しても消防だけでは動けないため、受け皿となる医療機関や他の関係機関との整合性が重要。
- 諸外国の事例だけでなく、福島原発事故での解決すべき課題に答えられることが重要。

- 装備の有無だけでなく、昼間や夜間の場合の対応能力の違いも考慮すべき。
- 活動に必要な情報を現場の職員まで十分に周知できるようなシステム作りも重要。
- 検討会の成果を現場職員等に伝達するため、委員各位にも協力していただきたい。